

51 回生シラバス

科目名： 倫理学	単位数： 1	担当者： ① 非常勤講師(実務経験有) ② 教務長 (臨床実務経験有)	総時間数(回数)： 30(15)	時期： 1年前期
科目目標： ・道徳的感性を磨き、生命倫理、医療の場における倫理について学ぶと共に、看護倫理について理解する。				
回	単元	単元目標と内容	方法 担当	学習範囲 事前課題
1	倫理学の基本的な考え方	・倫理学の基本的な考え方を理解する 1. 倫理とは何か 2. 倫理理論 3. 他者理解と対話のための理論	講義 ①	教科書 第1章
2	生命倫理	・生命倫理とは何かを理解する 1 生命倫理とは何か 2 生命倫理の理論 3 生命倫理と看護職の責務	講義 ①	教科書 第2章
3	性と生殖の生命倫理	・性と生殖の生命倫理の課題を理解する 1 性の生命倫理 2 生殖の生命倫理 3 生殖に対する医療的介入の課題	講義 ①	教科書 第3章
4	死の生命倫理	・死についての生命倫理の課題を理解する 1 死について 2 死と医療 3 死についての生命倫理の課題	講義 ①	教科書 第4章
5	先端医療と制度をめぐる生命倫理	・先端医療と制度をめぐる生命倫理について理解する 1 移植医療 2 再生医療 3 遺伝子医療 4 医療資源と医療保険制度	講義 ①	教科書 第5章
6	看護倫理とはなにか	・看護倫理とはなにかを理解する 1 看護倫理を学ぶ意義 2 看護倫理の歴史 3 看護の倫理原則 4 看護実践上の倫理的概念 5 看護実践と倫理	講義 ②	教科書 第6章
7	専門職の倫理	・専門職の倫理について理解する 1 専門職の倫理綱領 2 看護業務基準と倫理実践 3 保健師助産師看護師法と倫理	講義 ②	教科書 第7章
8	倫理的問題へのアプローチ	・倫理的問題へのアプローチ方法について理解する 1 倫理問題へのアプローチ	講義 ②	教科書 第8章
9 ～ 14	事例検討	・事例を通して看護倫理について考える	講義 GW ②	教科書 第9章
15	終講試験		筆記試験 ②	
教科書 (系看) 別巻 看護倫理 (医学書院：eテキスト)			評価方法 筆記試験 非常勤講師 50点 教務長 50点	
			評価基準 60点以上で合格とする。	

51 回生シラバス

科目名： 教養とマナー	単位数： 1	担当：(実務経験有) ① 非常勤講師（音楽講師） ② 非常勤講師（マナー講師） ③ 専任教員（臨床実務経験有）	総時間数（回数）： 15（8）	時期：1年前期
科目目標： ・自然や芸術に触れることで生まれる自己の感情に気づくことができる。 ・自己と他者との感性の違いがわかり、受け入れることができる。 ・日本人にとっての礼儀・作法を身につけることができる。				
回	単元	単元目標と内容	方法 担当	学習範囲 事前課題
1	芸術	・自然や芸術にふれ、自己の感情に気づくことができる。 事前準備 計画書の作成	演習 ③	【事前課題】 自分が触れた い芸術につ いて調べ る。 配付資料
2	マナー	自己紹介 訪問先での挨拶 御礼の伝え方 好感を持たれるための態度	演習 ②	
3	音楽	校歌等	演習 ①	
4 5	芸術	各自が計画に則って校外学習を実施する。 課題：「校外学習を行い、自分が感じたこと」 鑑賞レポート作成・提出	学外演習 ③	
6	マナー	自己紹介 訪問先での挨拶 御礼の伝え方 好感を持たれるための態度	講義 ②	
7	音楽	ナイチンゲール賛歌等	講義 ①	
8	芸術	・他者の発表を聞いて他者の思いや考えを知り、自己との 違い、多様性を知る。 鑑賞レポートの発表：「自分が感じたこと」 他者に伝わるようにプレゼンテーションを行う。 他者の発表を聞いて自己との違いを知る。 課題：発表後レポート「他者の価値観と自己の価値観の違い」 校外学習を通して感じたことを整理し、他者に伝わるように レポートにまとめる	発表 ③	鑑賞レポート 発表準備
教科書 配付資料			評価方法 ・音楽 授業参加状況 25点 ・芸術 鑑賞レポート 25点 発表後レポート 25点 ・マナー 授業参加態度 25点	
			評価基準 60点以上で合格とする。	

51 回生シラバス

科目名： 生活科学	単位数：1	担当者： ①専任教員（臨床実務経験有） ②非常勤講師（管理栄養士）	総時間数（回数）： 15（8）	時期： 1年 前期
科目目標： ・日本文化における「暮らし」を理解する。 ・「暮らし」を構成する食・衣・住生活について理解する。 ・「暮らし」が人々の健康に与える影響を理解する。 ・調理体験を通して、日本の伝統的食文化と食材を生かした調理の工夫について理解する。 ・地域別にみる「暮らし」を調べ、「暮らし」の多様性について理解する。				
回	単元	単元目標と内容	方法 担当	学習範囲 事前課題
1	日本の環境と生活	・日本の自然について理解する。 ・自然と「暮らし」との関連性を理解する。 1. 日本の気候 2. 災害と日本の自然環境 3. 生活と環境破壊	講義 ①	教科書① 第1章
2	食生活	・食の意義について理解する。 ・食事と健康との関わりについて理解する。 ・食生活の安全性と問題点について理解する。 ・日本および世界の食料事情について理解する。 1. 食の意義 2. 食事と健康 3. 食生活の安全性と問題点 4. 日本及び生活の食料事情	講義 ①	教科書① 第3章
3	衣生活	・被服の機能と装飾的機能について理解する。 ・自然と衣生活との関わりについて理解する。 1. 被服の機能 2. 被服の保健的機能 3. 被服の装飾的機能	講義 ①	教科書① 第4章
4	住生活	・日本の住居環境の特徴から住まいの文化を理解できる。 ・ライフスタイルに合わせた住生活の変化について理解する。 ・時代のニーズに沿った新しい住文化について理解する。 ・高齢者や障害者の住まいや住問題について理解する。 1. 住まいとは 2. 住まいと文化 3. 我が国の住まいの特徴 4. ファミリーライフサイクルと住まい 5. 生活の変容と新しい住生活	講義 ①	教科書① 第5章
5 6	調理体験	・調理体験を通して、食を理解する。 ・食材を生かした調理の工夫について理解する。 ・和食を理解する。	調理体験 ②	
7	地域別にみる「暮らし」の理解 ポスター発表	・自分が生まれ育った地域の「暮らし」について調べ学習をする。 ・地域別の「暮らし」について学び、「暮らし」の多様性について理解する。 ・調べ学習した内容を分かりやすくまとめ発表し、学生間で学びの共有を行う。	講義 ワーク ポスター発表 ①	
8	終講試験		筆記試験 ①	

教科書 参考書 ① 生活科学 オーム社	評価方法 ・筆記試験 70点 ・個人ワーク 30点
	評価基準 60点以上で合格とする。

51 回生シラバス

科目名： 社会学	単位数： 1	担当者（実務経験）： 非常勤講師	総時間数（回数）： 15（8）	時期： 1年 後期
科目目標： <ul style="list-style-type: none"> ・社会の中で生活し、社会を構成するすべての人々を理解する ・看護活動と社会との関わりについて理解できる。 ・看護や看護職の社会における位置づけについて理解できる。 				
回	単元	単元目標と内容	方法	学習範囲 事前課題
1	社会学の基礎概念	<ul style="list-style-type: none"> ・人間行動の特性を理解することができる。 ・社会を構成する社会関係、集団・組織、地位・役割について理解できる。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 行為、社会的行為 2. 相互行為、社会関係、地位-役割 3. 集団、組織、ネットワーク 4. 制度、全体社会、グローバル-システム 5. 社会変動とグローバリゼーション 	講義	教科書① 第1章
2	社会学的視点とモデル	<ul style="list-style-type: none"> ・社会学に固有の視点・モデルに基づいた研究を学ぶことで、保健医療領域における社会現象の理解に役立てることができる <ol style="list-style-type: none"> 1. 合意とコンフリクト 2. 構造と解釈 3. 構造と過程 4. 意図せざる結果 	講義	教科書① 第2章
3	保健医療と社会学	<ul style="list-style-type: none"> ・保健医療と社会、医学と社会学との関係について理解できる。 ・他者・集団との社会関係が健康状態に重要な影響を及ぼすことを理解できる。 ・医療がシステムとして社会に対して果たす役割、医療システム自体が社会的に規定されていることを理解できる。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会関係資本 2. 公衆衛生と社会医学 3. 病者の視点と社会的視点 4. 社会システムとしての医療 5. 保健医療と社会学 	講義	教科書① 第3章
4	健康・病気・ストレスの新しい見方ととらえ方	<ul style="list-style-type: none"> ・現在における健康・病気なたらしい社会の見方と・捉え方・その意義について学ぶ。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 健康・病気の見方・とらえ方 2. 健康・病気の新しい見方ととらえ方 3. ストレッサーとストレス、対処 <ul style="list-style-type: none"> ・社会格差とは何かを理解できる。 ・社会階層と健康・病気との関係を理解できる。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会格差と平等 2. 健康・病気の社会格差の諸相 3. 社会格差による健康格差発生のメカニズム 4. 社会格差是正の取り組みと可能性 	講義	教科書① 第5章 第6章
5	「働き方」「働かせ方」と健康・病気	<ul style="list-style-type: none"> ・仕事を取り巻く社会的な状況の変化と問題を理解できる。 ・「働き方」「働かせ方」が健康や病気に結びつくことを理解できる。 ・仕事や職場のどのような特徴が健康に影響を与えるのかを理解できる。 	講義	教科書① 第7章 第8章

6	性・ジェンダー・家族と保健医療	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークライフバランスの理解と実現について理解できる。 1. 「働き方」と「働かせ方」 2. 「働き方」「働かせ方」による健康への影響 3. 健康に影響を与える職場要因 4. 仕事と生活の調和 ・健康・病気行動の過程とその要因について学ぶ。 1. 健康行動と病気 2. 病経験 3. 3.病の語り 4. ヘルスリテラシー ・ジェンダーとはなにかについて理解できる ・保健医療における家族の役割を理解できる。 1. 性別・精査とは 2. 2.ジェンダーとケアの役割 3. ジェンダーと健康 4. 結婚と家族 5. 保健医療からみた結婚と家族 6. 男女共同参画社会の形成に向けた取り組み 	講義	教科書① 第 11 章
7	地域社会と保健医療	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティとは何かを理解できる。 ・社会関係をあらわすさまざまな概念と健康への影響を理解できる。 ・ヘルスプロモーションにおける地域の位置づけを理解できる。 ・地域の保健力とコミュニティエンパワメントについて理解できる。 ・ノーマライゼーションの考えが理解できる。 1. コミュニティと地域 2. ソーシャルサポートと社会関係資本 3. ヘルスプロモーションにおける地域 4. 地域の保健力 5. ノーマライゼーションと地域 	講義	教科書① 第 12 章
8	終講試験	筆記試験		
教科書 参考書 教科書①（系看）社会学（医学書院：eテキスト）			評価方法 ・筆記試験 評価基準 60 点以上で合格とする。	

50 回生シラバス

科目名： 国際文化	単位数： 1	担当者： ①副校長（臨床実務経験あり）	総時間数(回数)： 15 (8)	時期： 2 年次前期
科目目標： ・さまざまな文化・習慣などを知ることができる。 ・多様な文化や習慣を知ること、個々の価値観を受け入れる姿勢を身につけることができる。				
回	単元	単元目標と内容	方法 担当	学習範囲 事前課題
1	文化・習慣とは	・文化や習慣について理解する。 文化とは何か 習慣とは何か	講義 ①	教科書① 第6巻第1章
2	文化と習慣の違いが生まれる背景1	・環境の多様性を理解する。 世界の気候帯と海流、暑い地域に暮らす知恵、 温暖な地域に暮らす知恵、寒い地域に暮らす知恵、 乾燥した地域に暮らす知恵	講義 ①	教科書① 第6巻第2章
3	文化と習慣の違いが生まれる背景2	・適応のための人類の挑戦について理解する。 生業のちがひ、食のちがひ、 15 世紀の伝統的主作物分布図、 衣服のちがひ、住居のちがひ、さまざまな信仰・宗教	講義 ①	教科書① 第6巻第3章
4	作法の違い	・作法の違いについて理解する。 食事のマナーのちがひと背景	講義 ①	教科書② 第1巻
5	食文化の違い	・食文化の違いについて理解する。 料理や食べ物のちがひ	講義 ①	教科書③ 第2巻
6	生活スタイルの違い	・生活スタイルの違いについて理解する。 衣食住にまつわる世界の習慣	講義 ①	教科書④ 第3巻
7	人生のイベントのちがひ	・人生のイベントの違いについて理解する。 通過儀礼のちがひ、冠婚葬祭のちがひ、 結婚や婚約の考え方のちがひ、しつけのちがひ	講義 ①	教科書⑤ 第4巻
8	文化と習慣の違いが生まれる背景3	・文化交流とグローバル化について理解する。 文化の交流と衝突、グローバル化がもたらす影響、 グローバル化時代を生きるために	講義 ①	教科書① 第4章
教科書 ① 文化のちがひ習慣のちがひ第6巻 (学研) ② 文化のちがひ習慣のちがひ第1巻 (学研) ③ 文化のちがひ習慣のちがひ第2巻 (学研) ④ 文化のちがひ習慣のちがひ第3巻 (学研) ⑤ 文化のちがひ習慣のちがひ第4巻 (学研) 資料 必要時プリント配付			評価方法 ・授業終了後、多様な文化・習慣について 理解したことや感じたことをレポート にまとめたものを評価 評価基準 60 点以上で合格とする。	

51 回生シラバス

科目名： 心理学	単位数： 1	担当者： ①非常勤講師(実務経験有)	総時間数(回数)： 15(8)	時期：1年前期
科目目標： ・心理学における感覚・知覚、記憶、認知(思考)・学習、動機づけについて学び、心的過程の結果である反応・行動を理解する。 ・ストレス・心理療法の基礎について学び、意義を理解する。				
回	単元	単元目標と内容	方法	学習範囲 事前課題
1	心理学とは	・心理学について、概要を理解する。 心理学とは 心理学の研究方法 対人援助と心理学	講義 ①	教科書① 第1章
2	感覚・知覚と記憶	・感覚と知覚の違い・仕組みについて理解する。 感覚・知覚とは 感覚・知覚の仕組みと働き ・記憶と短期記憶、長期記憶について理解する。	講義 ①	教科書① 第2・3章
3	思考と認知	・認知・思考について理解する。 推論 判断 問題解決 認知の重要性	講義 ①	教科書① 第4章
4	学習	・心理学領域における学習について理解する。 古典的・オペラント条件づけと連合学習 認知学習・社会的学習	講義 ①	教科書① 第5章
4	動機づけ	・動機づけの定義と理論について理解する。 動機づけ理論 感情との関連	講義 ①	教科書① 第6章
5	心理臨床(ストレス)	・ストレスの仕組みと理論について理解する。 ストレスコーピング 心の適応と不適応	講義 ①	教科書① 第10章前半
6	心理臨床(心理療法)	・心の問題とその評定、適応と不適応、心理療法について理解する。 心理療法(精神分析・カウンセリング・認知行動療法)	講義 ①	教科書① 第10章後半
7	医療・看護と心理	・医療職と対人援助について理解する。 対人援助と援助職 医療・看護職の心理 ・認知療法等の基礎と活用 認知行動療法の基礎と活用	講義 ①	教科書① 第11章
8	終講試験		試験 ①	
教科書 参考書 ①(系看) 心理学(医学書院:eテキスト)			評価方法 ・事前学習・ミニドリル 50点 ・筆記試験 50点 の合計 100点	
			評価基準 60点以上で合格とする。	

51 回生シラバス

科目名： スピリチュアルケア	単位数： 1	担当者：(実務経験有) ①非常勤講師 ②非常勤講師 ③非常勤講師 ④非常勤講師 ⑤専任教員	総時間数（回数）： 15（8）	時期： 1 年次後期
科目目標： ・スピリチュアリティとスピリチュアルケアについて理解することができる。 ・さまざまな宗教に触れることにより、自己の死生観について考えることができる。 ・自己の死生観を考えることで、他者の価値観を受け入れ、尊敬する心を養う事が出来る。				
回	単元	単元目標と内容	方法 担当	学習範囲 事前課題
1	仏教	・仏教が説く生と死について理解する。	説話 ①	事前課題 ・仏教について調べる
2	神道	・神道が説く生と死について理解する。	説話 ②	事前課題 ・神道について調べる
3	キリスト教	・キリスト教が説く生と死について理解する。	説話 ③	事前課題 ・キリスト教について調べる
4	スピリチュアリティとスピリチュアルケア	・スピリチュアリティとスピリチュアルケアについて理解する。 スピリチュアルケアとは何か スピリチュアルケアの理解を深めるために	講義 ④	教科書① 第1章
5	エンドオブ・ライフケアとスピリチュアルケア	・エンドオブ・ライフケアとスピリチュアルケアについて理解する。 ACP（人生会議）とは何か エンドオブ・ライフケアの具体例	講義 ④	教科書②
6	スピリチュアルケアのロールプレイ	・看護に活かすスピリチュアルケアについて理解する。 他者の為に行うスピリチュアルケアとは	講義 演習 ④	教科書① 第3章
7	セルフケアと臨床瞑想法	・セルフケアと臨床瞑想法について理解する。 スピリチュアルケアのコアとなる「臨床瞑想法」を知る スピリチュアルケアのコアとなる「臨床瞑想法」を会得する 事例から考える、自分づくりのスピリチュアルケア	講義 演習 ④	教科書① 第2章
8	死生観	・これまでの授業を振り返り、自分の死生観について考え レポートにまとめる準備ができる。	講義 ⑤	教科書①
教科書 ① 実践的スピリチュアルケア（日本看護協会出版会） ② ACP：人生会議でこころのケア（ビィングネットプレス）			評価方法 ・課題の取り組み、内容による評価 ・授業終了後、各自の死生観をレポートにまとめさせたものを評価	
			評価基準 60点以上で合格とする。	

51 回生シラバス

科目名： 人間関係論Ⅰ（総論）	単位数： 1	担当者： ①非常勤講師(実務経験有)	総時間数（回数） 15（8）	時期： 1年 前期
科目目標： ・人間関係における自己理解、他者理解について学び、信頼関係の形成に必要なコミュニケーションスキルを学ぶ。				
回	単元	単元目標と内容	方法 担当	学習範囲 事前課題
1 2	オリエンテーション 人間関係の中の自己と 他者	授業内容、進め方等について説明する 人間関係とは何か、自己の認識と発達、他者との影響について理解する。 人間関係とは 自己認知 対人認知	講義 ①	教科書① 第1章
3	対人関係と役割	対人関係の成立、対人葛藤の原因と対処法、対人関係と自己管理について理解する。 対人関係の成立 対人関係の維持と崩壊 対人葛藤と対処 社会的役割	講義 ①	教科書① 第2章
4	態度と対人行動	人の態度と行動に影響する要因や行動の変容に関わる理論を理解する。 態度と態度変化 説得的コミュニケーション 攻撃 援助	講義 ①	教科書① 第3章
5	集団と個人	集団の理解と集団が個人の行動や課題の遂行に与える影響を考える。また、問題解決や意思決定において、集団が個人に与える影響について理解する。 集団の特性 集団での課題遂行 集団での問題解決と意思決定 リーダーシップ	講義 ①	教科書① 第4章
6	コミュニケーション①	人間関係を形成するたねの基本的な手段であるコミュニケーションのしくみを理解する。 コミュニケーションとは 対人コミュニケーション	講義 ①	教科書① 第5章
7	コミュニケーション②	マスコミュニケーション、ICT とコミュニケーションの関係について理解する。 マスコミュニケーション ICTの発達とコミュニケーション	講義 ①	教科書① 第5章
8	終講試験		試験 ①	
教科書 参考書 ①（系看） 人間関係論（医学書院：eテキスト）			評価方法 筆記試験、授業に対する姿勢を総合して評価する 評価基準 60点以上で合格とする	

担当者①実務経験あり

51 回生シラバス

科目名： 人間関係論Ⅱ（方法論）		単位数： 1	担当者： ①非常勤講師(実務経験有)	総時間数（回数） 30（15）	時期： 1年 後期
科目目標： ・看護実践で必要となる患者との関係、他の保健医療専門職、家族、地域社会との連携に必要なスキルを身につける。					
回	単元	単元目標と内容		方法 担当	学習範囲 事前課題
1	オリエンテーション	授業内容、進め方等について説明する		講義 ①	
2	カウンセリングと心理 療法	カウンセリング・心理療法の種類と方法、看護への応用について理解する。		講義 演習 ①	教科書① 第6章
3		カウンセリング・心理療法の理論とスキル 看護への応用			
4		コーチングスキルの種類と方法について理解する。 コーチングの理論とスキル 看護への応用			
5	アサーティブ・コミュニ ケーション	アサーティブ・コミュニケーションについて学び、医療現場で看護師としてのアサーティブな対応について理解する。		講義 演習 ①	教科書① 第8章
6		アサーションの理論とスキル			
7		看護への応用			
8	保健医療チームの人間 関係	保健医療チームにおけるチームの特性と看護師の役割を考え、チームにおけるコミュニケーションエラーとその予防を理解する。		講義 演習 ①	教科書① 第9章
9		医療におけるチームと看護師の役割			
10		チームワークとチームエラー チームにおけるコミュニケーションエラーとその予防 他職種連携に向けて			
11	患者を支える人間関係	患者と医療者の関係の在り方を考え、さまざまな状況で患者を支えるための看護師のかかわりを理解する。		講義 ①	教科書① 第10章
12		患者・医療者関係 患者・看護師間の相互作用の評価 さまざまな看護場面における人間関係			
13	家族を含めた人間関係	家族を理解する理論と支援モデルを学び、家族への看護について理解する。 家族関係論 家族看護の展開 さまざまな状況・患者と家族の看護		講義 ①	教科書① 第11章
14	地域をつくる人間関係	地域や社会の力、地域の中での人間関係の力について理解する。 個人を取り巻く人間関係 ピアサポートを通じた人間関係 人間関係の集合としての地域の力 人間関係の力が最大になる社会		講義 ①	教科書① 第12章
15	終講試験			試験 ①	
教科書 参考書 ①（系看） 人間関係論（医学書院：eテキスト）				評価方法 筆記試験、授業に対する姿勢を総合して評価する	
				評価基準 60点以上で合格とする	

担当者①実務経験あり

50 回生シラバス

科目名: 英語	単位数: 1	担当者:(実務経験有) ①非常勤講師	総時間数(回数) 30 (15)	時期: 2 年次前期
科目目標				
看護に関する英訳文献の活用や国際社会に能力を養う。				
回	単元	単元目標と内容		方法、担当
1	授業 1	体の部位		講義、①
2	授業 2	一般的な病気 1		講義、①
3	授業 3	身体検査(身長、体重、体温、脈拍、血圧)		講義、①
4	授業 4	血液サンプルやその他のサンプル採取、内臓		講義、①
5	授業 5	入院の準備		講義、①
6	授業 6	入院に関すること		講義、①
7	復習・まとめ 1			講義、①
8	中間試験			中間試験
9	授業 7	レントゲンやその他検査の準備		講義、①
10	授業 8	痛みに対する対処		講義、①
11	授業 9	投薬		講義、①
12	授業 10	一般的な病気 2		講義、①
13	授業 11	健康に関するアドバイス		講義、①
14	復習・まとめ 2			講義、①
15	テスト			テスト、①
教科書 参考書 インターチェンジ・イントロ B(プリント) 色々なプリント		<p>評価方法</p> <p>積極性 —25%</p> <p>これは出席率と授業への積極的な姿勢の両面を含む。 英会話を身に付けるにあたり、与えられたタスクに積極的に参加することが不可欠である。従って本コースにおいて優秀な成績を修めるにはこの積極性が最も重要であると考え。学生に英会話の達人を期待するのではなく、授業で各自が最善を尽くし集中して学習することを期待している。積極性に関して減点の対象なるものは、目立つ欠席回数、授業中の携帯電話使用(通話やメール)、居眠り、日本語でのおしゃべり等である。</p> <p>宿題 —20%</p> <p>中間試験 —25%</p> <p>期末テスト—30%</p> <p>評価基準 60 点以上で合格とする。</p>		